

経営学部50周年

黒岩彰氏ら本学卒業生を講師に迎え 記念講演会と祝賀会を6月に開催

本学経営学部は本年4月に創立50周年を迎えた。日本のマネジメント研究の黎明期、1962年(昭和37年)に創立し、我が国大学設置の経営学部の中でも5番目に長い歴史を有する。「理論と実践の融合」の教育方針の下に、創立当初からコンピュータ教育を重視し、その後も実務家による講義、企業研修、寄付講座などを通じた実務教育を積極的に進め、2007年度には新しいカリキュラムを導入した。この間、卒業生は3万5千人余りに達し、多くの分野で活躍している。

創立50周年を記念し、創立50周年記念講演会および祝賀会が開催される。経営学部卒業生をはじめ多数の方々の参加を期待している。

●記念講演会 (参加無料)

▽日時 6月9日(土) 14:30~17:30
▽場所 生田キャンパス10号館3階
▽テーマ 「不易流行のマネジメント―未来をひらく人材―」
▽基調講演 黒岩彰氏(富士急行㈱スケート部監督、昭59商)

▽企業経営者による講演およびディスカッション
・一之瀬卓氏(㈱ipoca代表取締役社長、平8経営) / 森田隼人氏(シヤボン玉石けん㈱代表取締役社長、平12経営) 総務部 加藤茂夫経営学部教授

※引き続き祝賀会(会費2000円)を17:40から開催。
また、経営学部創立50周年記念事業委員会(委員長:加藤茂夫経営学部教授)では、今回の記念講演会・祝賀会のほか、記念事業の一環として、寄付募集事業(今年4月から第2期募集開始)および出版事業を進めている。

3大学連携フェア ~明日のこどもたちのために~

ネットワーク情報学部 2年次生37人が参加



▲ 地層の積もる状況を再現した「つもるん」の実演



▲ 化石と堆積岩の学習モデルを提案した「つみかせき」

地域社会と連携し、課題解決に実践的に取り組もうと設立された多摩区・3大学連携協議会の「3大学連携フェア」明日のこどもたちのために「大地のつくり」が学べる教材を制作・実演

地域社会と連携し、課題解決に実践的に取り組もうと設立された多摩区・3大学連携協議会の「3大学連携フェア」明日のこどもたちのために「大地のつくり」が学べる教材を制作・実演

た地域連携活動や、学習教材の開発などの研究成果を発表した。本学からは、ネットワーク情報学部のコンテンツが「大地のつくり」を学ぶための体験型学習教材のデモンストラクションを行った。

地層の積もる状況を疑似的に再現した「つもるん」や地震が起こる仕組みを学習する「ゆれらぼ」など、各グループとも試行錯誤を重ねた力作揃いで、来場者からは「自然現象は教科書を読むだけでは理解しづらいが、模型で実演されることで仕組みが分かりやすくなる。すばらしいアイデアだ」との声が聞かれた。

お問い合わせ先
・専修大学経営学部創立50周年記念事業委員会
keiei50th@isc.senshu-u.ac.jp
・50周年記念事業特設ページ
http://www.senshu-u.ac.jp/School/keiei/keiei50th/

外国語のススメ LL研究室

英語
成田 雅彦 経営学部教授

昔の本の間から枯葉の形のしおりが出てきた。大学生の時、英会話学校の先生からもらったものだ。最後の授業の時、「自然はアメリカ文学ではとても重要です」と言って大学院に進む予定の僕にくれたのだ。なつかしかった。

30年以上も前、しがたない大学生であった。授業はほぼサボっていた。大塚の古い4畳半のアパートに暮らし、夜中に本を読み、日中は寝ているという生活を送っていた。そうした生活に風穴をあけたいと思ったのであろう。バイトで稼いだ貯金をはたいて渋谷の英会話学校に行くことにした。

その教師がバーバラだった。「アイム・バーバラ。ノット、バラバラ」

とその不思議な風貌のアメリカ人は言った。目の奥の強い知性とあふれ出る自由が、この人を操り人形のように動かしていた。最初こそ殊勝に英会話をやっていたが、やがて僕と「お茶大」の学生を相手に、小説、詩、映画などを素材にこちらが驚くような世界を語り始めた。衝撃を受けた。授業の後も3人でビッグ・マックを買って代々木公園に行き、必ず立ち入り禁止の植え込みをくぐって空き地で話を続けた。小春日和の中、裸足で鼻歌を歌いながら仕切り石の上を、バランスを取って歩いたりもした。自由な人だと思った。そうか、こんなふうには生きればいいのか、と僕はうれしくなった。

僕は英語を猛然と勉強しはじめた。バーバラの自由を獲得する。それが、僕の英語学習の目標であった。ずいぶん昔の話である。元気だろうか。マイ・バーバラ!

※全文はLL研究室ホームページで

「オンリーワン」の魅力に触れる

図書館企画展 5月開催

図書館春の企画展示「はじめて観るマニュスクリプト―世界でひとつという魅力」

「はじめて観るマニュスクリプト―世界でひとつという魅力」

「世界三大美書」の一つに数えられる本「ヤルドゥス版『ダンテの三行詩』」(商業印刷の父)と呼ばれるアルドゥス・マヌティウスが1502年に出版したダンテの『神曲』など貴重な刊本も展示。

さらに、展示物にまつわる研究書や複製本など、手に取ってじっくりと鑑賞するコーナーも設ける。

▽期間 5月9日(水)~29日(火) 12:00~16:00
※日曜休み、ただし5月27日(日)は、開催(12:00~14:00)。
※5月19日(土)には写本と複製物語に関する講演会が行われる(詳細は図書館ホームページを参照)。
▽会場 図書館本館生田キャンパス9号館3階

大久保長安の謎

江戸の金山奉行 大久保長安の謎

川上 隆幸著

戦国の終わりにから江戸の初期にかけて、大久保長安といふ謎の男がいた。猿蓑師の家生まれながら、武田家の家臣に仕え、徳川家康の官僚であった。徳川家康には経理の才能を高く評価され、石見、佐渡、伊豆の金山奉行として江戸幕府初期の財政基盤を確立。また宿願、一里塚の設置等交通網を整備し、江戸社会

雪印 東京電力スカイマーク 小松 東京ディスプレイ 池田内田アサヒビル

経営の失敗と危機的状況からの復元を検討し、リスクの直視、企業ビジョン・理念の重要性と持続化を環境変化への柔軟な思考の重要性を強調しながら、復元力を生むリスクマネジメント思考と施策が具体的に検討されている。同文館出版 本体2800円(税別)

著者(うたかた)は、経営学部教授。主な担当はリスクマネジメント、保険論。

言語哲学への新視角

ウィットゲンシュタインは20世紀哲学を代表する哲学者だが、そのテキストの難解なことも知られる。本書は、そのウィットゲンシュタインの「論理哲学論考」・「哲学探究」等を、これまで

川崎 誠著

ウィットゲンシュタインは20世紀哲学を代表する哲学者だが、そのテキストの難解なことも知られる。本書は、そのウィットゲンシュタインの「論理哲学論考」・「哲学探究」等を、これまで

新しい本

では異なる方法で読解した。すなわち「シニール」一般言語学講義に挙げられる言語学実用およびヘーゲル「大論理学」に展開される論理が、ウィットゲンシュタインのテキストと対应的である。この読み方により、ウィットゲンシュタインのテキストの一貫した読解が可能になった。

また本書のこの方法(シニール)という回顧法)は、学問の方法のどのようなかをおのずと示すものとなっている。(理想社 本体3000円(税別))

著者(かわさき)は、経営学部教授。主な担当は日本語。